

クラブに根付くコースを大切に 目土袋を片手にティポットを 直す瀬戸本さん（手前）。奥 は河野さん

「2010報知クラブ対抗レディースゴルフ大会」あす開催

千刈カンツリー倶楽部（兵庫県三田市）

コース拝見

JR三田駅から
車で約10分

明日（21日）開催される2010報知クラブ対抗レディースゴルフ大会、決勝の会場となる千刈カンツリー倶楽部（兵庫県三田市）は、関西学院大学が経営母体の名門ゴルフ場だ。



堂々とそびえる羽束山を
間に望む16番ホール

JR三田駅から車で約10分、三田市街を抜けると、そこには日常と非なる静寂が待っていた。開場45年の風格漂うクラブハウスに入ると、今大会のキャプテンとしてチームを引っ張る河野悦代さんと、古くからのメンバーで、選手として出場する瀬戸本千恵子さんの2人がやさしい笑顔で迎え入れてくれた。



スタートホールとなる左ドックレックの1番ホール。ここ千刈の鉄則は「ドックレックは外回り」です。無理してショートカットを狙うと、奥にはまってしまいます。河野さんの言う通り、コースを進んで行くと、見えないところに池があった。手作りのホールが多く、しかもグリーンまわりがティフロン芝になっていてアプローチが難しい。いまの季節グリーンも速く、息が抜けないコースが連続する。



スタート室横の棚には、メンバーの名前入りの目土袋が置いてある。

目土袋を片手にティポットを直す瀬戸本さん（手前）。奥は河野さん

ティーショットを打ち終わった2人は、カートに乗らずに何やら目土袋を肩にかけ、黙々と目土を入れている。確かにコースにはティポットがなく、しっかりと目土が入っていた。「以前、ドクター（仮名）という方が、目土袋を片手にアレしている姿を見て、池戸支配人が感銘を受け、メンバーの有志で『千刈目土を入れる』を結成しました。いまでは、自分たちのコースという自覚をもってコースに接しています」と、スコップ片手に笑顔で話す2人。

得てして商業主義に走り、コースメンテナンスが後まわしになってしまっただけで、メンバーが自分たちのコースを大切にすることを、本来のメンバーシップのゴルフ場のあり方という同CCCの池戸支配人のポリシーが、メンバーたちに伝わり、抜群のコース状況を維持している。

（千刈カンツリー倶楽部）こそ、真のゴルフ倶楽部、といえるだろう。

【住所】兵庫県三田市山田大道ヶ平6005
【電話】079-5664-27002